

2000

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-253779

(43) 公開日 平成10年(1998) 9月25日

(51) Int.Cl. ⁶	識別記号	F I	
G 0 4 G 5/00		G 0 4 G 5/00	J
	7/02		Z
		7/02	

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平9-57941
 (22) 出願日 平成9年(1997) 3月12日

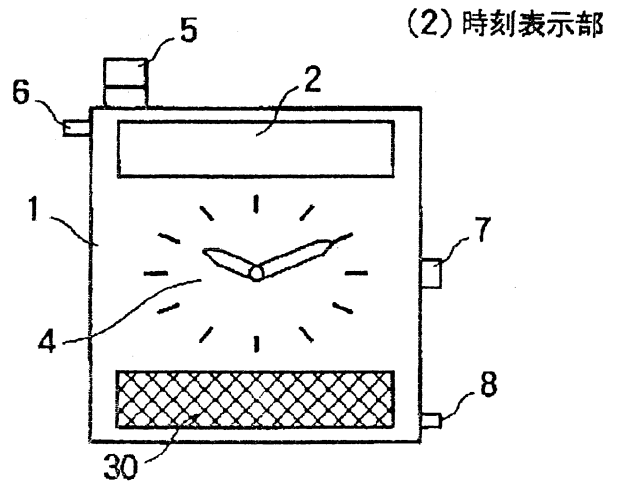
(71) 出願人 597034451
 有限会社ケアリタ
 東京都品川区平塚1丁目6番25号
 (72) 発明者 小林 靖
 東京都品川区平塚1丁目6番25号 フラッ
 ト品川305号 有限会社ケアリタ内
 (74) 代理人 弁理士 曾我 道照 (外6名)

(54) 【発明の名称】 携帯用時刻自動修正時計

(57) 【要約】

【課題】 従来の携帯用時計は、時差を示すために複数のムーブメントを用いて時刻表示していたため、2地域の時差表示しかできず、多地域の表示を行うことはできなかった。

【解決手段】 本発明による携帯用時刻自動修正時計は、衛星(10)から送信される時刻情報(10a)を受信し前記時刻表示部(2)に接続された時刻修正部(21)により移動地域に応じて時刻の自動修正を行う構成である。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 時刻表示部(2)を有する時計において、衛星(10)から送信される時刻情報(10a)を受信し前記時刻表示部(2)に接続された時刻修正部(21)により移動地域に応じて時刻の自動修正を行うことを特徴とする携帯用時刻自動修正時計。

【請求項2】 前記時刻修正部(21)には、音声認識部(31)及びマイクロホン(30)が接続され、音声にて入力させる音声時刻情報により前記時刻表示部(2)の表示が修正されることを特徴とする請求項1記載の携帯用時刻自動修正時計。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、携帯用時刻自動修正時計に関し、特に、時差がある地域にかけて時計が移動した時に、時差を衛星からの時刻情報により自動的に修正するための新規な改良に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、用いられていたこの種の時差を修正する時計としては、一般に、電子式及び機械式時計の場合にはムーブメントが複数用いられて各々異なる時刻が表示されている構成が殆んどで、ムーブメントが1個の場合には、ボタンにより異なる時刻に切替えていた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】従来の時計は、以上のように構成されていたため、次のような課題が存在していた。すなわち、時差がある地域に移動した場合、予め他方のムーブメントに設定した時刻しか表示することはできず、次々と時差のある地域に移動した場合には、次々と手動で修正しなければならなかった。

【0004】本発明は、以上のような課題を解決するためになされたもので、特に、時差がある地域にかけて時計が移動した時に、時差を衛星からの時刻情報により自動的に修正するようにした携帯用時刻自動修正時計を提供することを目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】本発明による携帯用時刻自動修正時計は、時刻表示部を有する時計において、衛星から送信される時刻情報を受信し前記時刻表示部に接続された時刻修正部により移動地域に応じて時刻の自動修正を行う構成である。

【0006】さらに詳細には、前記時刻修正部には、音声認識部及びマイクロホンが接続され、音声にて入力させる音声時刻情報により前記時刻表示部の表示が修正される構成である。

【0007】

【発明の実施の形態】以下、図面と共に本発明による携帯用時刻自動修正時計の好適な実施の形態について述べる。図1で示す構成は、本発明による時計の外観を示すもので、本体1の上部には時刻をデジタル表示するため

の時刻表示部2が設けられ、その下方にはマイクロホン3が設けられている。この時刻表示部2とマイクロホン3との間にはアナログ時刻表示部4が設けられている。この本体1には、アンテナ5、時刻表示部2の時刻設定を行うための設定スイッチ6、アナログ時刻表示部4を修正するためのリユーズ7、音声認識による時刻修正を行う場合の音声認識用スイッチ8が設けられている。

【0008】前記本体1内における機能としては、図2で示すように構成されている。すなわち、アンテナ5で受信された衛星10(図3で示す)からの周知の時刻情報は受信部20で受信されて時刻修正部21へ入力され、時差に応じた修正信号21aが時刻表示部2又はアナログ時刻表示部4の時計回路22へ入力されて周知のカウンタ回路によりその地域に応じた時差の時刻修正が行われる。また、この時刻情報に基づいて時差をするのではなく、例えば、人間が時差(時刻)または他の地域の時刻(知りたい場所の名前も可)を音声で修正する場合には、修正内容をマイクロホン30に入力すると、その内容を音声認識部31で認識し、時刻修正部21で前述と同様に時刻修正することができる。この時刻修正は変化したままでもよいが、呼び出した他の時刻を数秒間のみ表示して再び現在地域の時刻表示に戻るようにすることもできる。

【0009】次に、実際に時刻修正する状態について述べると、図3で示すように、日本から米国に利用者が時計と共に移動した場合、衛星10からの時刻情報10aに基づいて刻々変化する時刻を自動的に修正することができ、飛行機の中でも移動しつつ時刻が修正される。なお、前述の図1で示す時計の形態としては1例を示したもので、この形態に限るものではなく、任意の形態とすることができることは述べるまでもないことである。

【0010】

【発明の効果】本発明による携帯用時刻自動修正時計は、以上のように構成されているため、次のような効果を得ることができる。すなわち、衛星からの時刻情報を受信して時差を自動的に修正することができ、地球上のどの地域に移動しても時差は自動的に修正され、利用者は常に修正済みのその地域の時刻を見ることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明による携帯用時刻自動修正時計を示す外観図である。

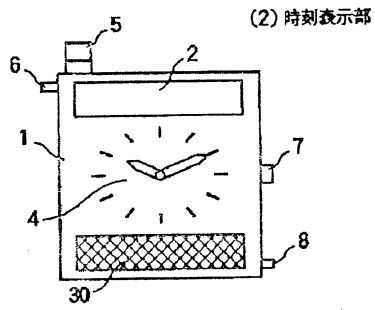
【図2】図1のブロック図である。

【図3】衛星による修正状態を示す説明図である。

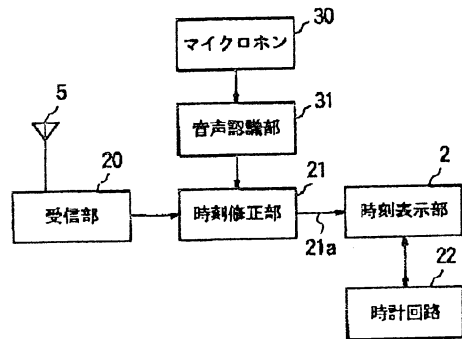
【符号の説明】

- 2 時刻表示部
- 10 衛星
- 10a 時刻情報
- 21 時刻修正部
- 30 マイクロホン
- 31 音声認識部

【図1】



【図2】



【図3】

